

BEANS 小さな自然科学者をささえる人々

自然を知らない子どもたち

B EANSが始まるきっかけの二つは、「山村留学」(※1)だ。移住者を増やしたいという町の依頼を受け、辻元町長・元北小の校長先生と大西さんが話し合いをした。その中で見つかった課題が「自然の中で暮らす児童が身の回りの自然のことを知らない」ということだった。

そこで、早川の豊かな自然を通して郷土愛を育むことができる、野外自然観察授業が提案された。

2014年(平成26年)には、早川町をはじめとする3県10市町村が「南アルプスコネクトパーク」(※2)に登録された。

BEANSが始まった

2 016年(平成28年)に総合学習BEANSが北小と野鳥公園の共同で始まった。それから8年後の2024年(令和6年)。野鳥公園から大西さんをはじめ松本哲矢さん、渡邊和司さんがネイチャーガイドを担当。北小からは早川町生まれで町在住の小野哲理先生がBEANSを受け持った。

横澤敏英校長先生は、全体の運営を安全に進められるように気配りする。

野鳥公園と北小は、役割分担が細かく決められている。分担がうまくいかない時は、学校と野鳥公園の打ち合わせ担当が活躍する。

今年度のパイプ役は小野先生だ。

BEANSの野外活動の拠点は、野鳥公園だ。この時注意

早川町の風景

BEANSの野外での活動の様子

文 浜田 尚子

ニックネームはフィーヨー

2 008年(平成20年)早川町にやってきた大西信正さん。町からの依頼で、南アルプス野鳥公園とヘルシー美里(宿泊施設)の管理運営を任されている所長さんだ。この仕事について17年になる。

大西さんは町に来る前は宮城県の金華山島で、18年もの間「ホンジカの研究をしていた。大西さんのニックネームは「フィーヨー」。それはオスジカの繁殖期の鳴き声だ。『過疎化した山村でのシカの食性―山梨県早川町の事例―』

の調査報告書を共同で執筆するなど、町に来てからも山に生きるシカの社会を見守り続けている。

金華山島で培った大西さんの自然を理解する視点や自然観は、町にも活かされている。例えば耕作放棄地を「生きものいっぱい農園」に変えたこと。ほかにも町内に生育する特定外来種オオキンケイギクの駆除を町民に呼びかけ対策を進めている。

そして取り組んだのが早川北小学校(以後、北小)の「BEANS・自然科学者になろう」だった。

大西 信正さん

渡邊 和司さん

BEANSの野外での活動の様子

松本 哲矢さん

BEANSの野外での活動の様子

するのがお天気だ。例えば大雨が降った後はヒルが出やすいので、日程を変更する時もある。猛暑になりそうな日は事前に気温をチェックし、時間をずらすなど配慮を怠らない。活動の判断は学校だ。

1年間の活動の始まりは5月。BEANSの大きな目的は、児童が「生きる力」を養うことだ。「生きる力」それは、科学的な思考を育むことだ。まず課題を見つけ解決のための思考をする。そして得られた結果をみんなで共有し、さらなる課題に挑戦することだ。大西さんが説明してくれた。

「課題を見つけるのは、はじめは難しく、こちらで設定することもあります。また、課題ではなく対象の生き物を決めることもあります。とりあえず自然を観察することを大事にしています」

課題の見つけ方は児童二人人が違っている。年度の途中で課題を変える子がいれば、6年生までの4年間ひたすら獣道を調べる児童もいる。大西さんは「答えをせせらずに児童の発見を待ちたい」と、考えている。

横澤 敏英
校長先生

小野 哲理
先生

BEANSと子どもの成長

B EANSを学びながら、子どもたちはどんなふうになるのだろうか。小野先生に聞いた。

2年生の時、ある児童が千葉県から山村留学してきた。虫が苦手だった。ところが3年生になりBEANSで選んだ題材はトゲアリ。背中にあるトゲや胸の明るく鮮やかな色に「かっこいい」と、魅かれてしまった。公園での観察活動では、まずトゲアリの巣を探した。トゲアリは木の根元や朽木に巣を作る。根気よく探して、とうとう見つけた。そして4年生のBEANSもトゲアリを選んだ。ところがトゲアリはいつの間にかいなくなってしまう。「冬眠したのかな」と考えたがいなくなったのは9月だ。小野先生は「9月に冬眠するのかな」と、疑問を投げかけた。すると児童は気温を調べ始めたのだ。そして気温と冬眠は必ずしも関係がないことに気づき「敵に襲われて減ってしまうのかもかもしれない」と、いろいろな可能性を考え始めたのだ。その後季節ごとのトゲアリの変化も調べ始めた。

横澤校長先生は、子どもたちが継続して調べる力を育んでいることや、粘り強く課題に向かう姿に素晴らしいさを感じている。

学校の特色ある教育活動BEANSを、北小のPTAも応援している。2024年度（令和6年度）には優良PTA文部科学大臣賞を受賞することになった。横澤校長先生は、「次につなげたいという思いがあった。受賞は本当に嬉しい」と喜びを語った。

BEANSの未来

2

025年（令和7年）2月21日、北小におおぜいの人が集まった。BEANSの発表会だ。BEANSをささえる北小の教職員のみならず、野鳥公園の所長大西さんをはじめとする、ネイチャーガイドのみなさん、保護者のみなさん、早川町教育委員会の方々、早川町役場関係の方々が集まり、子どもたちの発表に耳をかたむけた。子どもたちは1年を通じて追いかけたそれぞれのテーマを、パワーポイントやタブレット端末などを駆使して発表する。その横顔はもう立派な自然科学者だ。

8年間の児童のBEANS発表を見続けてきた大西さんは振り返る。

「活動中は大きな発見が無かったような児童がいた。ところが発表を見ると、児童が調査の時に感じたことや、発見したこ

とがとてもよくわかり、感動したことがある」

そしてBEANSへの願いも話してくれた。

「子どもたちが早川町の自然を、少しでも好きになってほしい。そうすれば南アルプスの自然の保全・保護が必要になった時は、きつと科学的な思考で行動してくれるに違いない」

学びの多い総合学習BEANS。早川町にとどまらずBEANSで育まれる生きる力が全国の子どもたちに広がることを心から願っている。

※1 早川町の「山村留学」とは、都市部など他地域からの家族を受け入れサポートする制度。移住した家族は地域と関わりながら暮らし、子どもは自然豊かな町の小・中学校で教育を受けられる。

※2 「ユネスコエコパーク」とは、生態系の保全と、自然と人間社会の共生を目的に、ユネスコが推進し、認定する地域のこと。2014年に登録された「南アルプスユネスコエコパーク」では、その貴重な自然環境と文化を守りながら、地域間交流を深め、持続可能な活用を通じて魅力ある地域づくりを目指している。



BEANSの野外での活動の様子



BEANSの発表会の様子



トゲアリ



上・左・下
BEANSの野外での活動の様子

